

**2014年3月期 第2四半期  
決算資料**

**（決算の概要 および 下期業績予想）**

**2013年11月1日**

**JFE商事 株式会社**

1. 2014年3月期第2四半期連結決算のポイント
2. 連結損益計算書
3. 連結貸借対照表(要約)
4. 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)
5. 2014年3月期通期連結業績予想
6. 《参考》売上高・経常利益推移(連結)

# 1. 2014年3月期 第2四半期連結決算のポイント

- ◆ 経常利益は、建材を中心とした国内向け鋼材販売数量増、  
原材料分野における鉄鉱石等の拡販効果、  
また国内外グループ会社の収益改善により、  
前年同期比29億円増の104億円。
  
- ◆ 四半期純利益は、経常利益29億円の増益等により、  
前年同期比21億円増の63億円。

## 2. 連結損益計算書

(億円)

	第1Q (4-6月)	当2Q (7-9月)	当四半期 (4-9累計)	前年同期	増減(累計-前年同期)	
					増減	増減率
売上高	4,224	4,334	8,558	9,583	① ▲1,025	▲11%
売上総利益 (利益率)	165 (3.9%)	168 (3.9%)	333 (3.9%)	322 (3.4%)	② 11 (0.5%)	3%
販管費	120	121	241	243	③ ▲2	▲1%
営業利益	45	47	92	79	13	16%
営業外損益	6	6	12	▲4	④ 16	
経常利益	51	53	104	75	29	38%
特別損益	-	-	-	-	-	
税引前 四半期純利益	51	53	104	75	29	38%
四半期純利益	30	33	63	42	21	50%

### ①②売上高・売上総利益

●JFE商事(単独)	▲1,164	+2
●分社2社(建材・鋼管)	+183	+8
●国内子会社	▲29	+3
●海外子会社	+54	+1
●連結修正	▲69	▲3

### ③販売費及び一般管理費

一般経費の減 他

### ④営業外損益

持分法利益、受取配当金 他

### 3. 連結貸借対照表(要約)

(億円)

	当四半期末 (9月末)	前期末 (3月末)	増減
総資産	5,549	5,230	① 319
純資産	1,469	1,346	② 123
有利子負債	1,052	991	③ 61
有利子負債倍率 (DER)	0.74倍	0.76倍	▲0.02倍
(ネットDER)	0.55倍	0.58倍	▲0.03倍
自己資本比率	25.5%	24.8%	0.7%

#### ① 総資産

前期末比319億円増の5,549億円。

現預金 + 35  
 売上債権 + 209  
 棚卸資産 + 27 他

#### ② 純資産

《 123億円増の内訳 》

～増加～ 利益剰余金 +53億円  
 評価・換算差額 +66億円  
 少数株主持分 +4億円

#### ③ 有利子負債

前期末比 61億円増の1,052億円。

#### ※有利子負債倍率 (DER)

= 有利子負債 ÷ (純資産 - 少数株主持分)

#### ※自己資本比率

= (純資産 - 少数株主持分) ÷ 総資産

#### ※有利子負債倍率 (DER)

= 有利子負債から現預金を控除して算出

# 4. 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

《億円》

	当四半期 (4-9月)
営業活動によるCF	47
投資活動によるCF	▲ 43
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	4
財務活動によるCF	19
現金同等物の換算差額他	11
現金及び現金同等物の増減	34
現金及び現金同等物 (期首)	240
現金及び現金同等物 (当四半期末)	274

## ●営業活動によるCF

税引前利益	+	104	
減価償却	+	22	
営業立替の増	▲	44	
在庫の減	+	7	
法人税等の支払	▲	25	他

## ●投資活動によるCF

有形固定資産の取得	▲	25	
無形固定資産の取得	▲	4	
貸付による支出	▲	17	他

## ●財務活動によるCF

借入金等の増減	+	21	他
---------	---	----	---

# 5. 2014年3月期 通期連結業績予想

(億円)

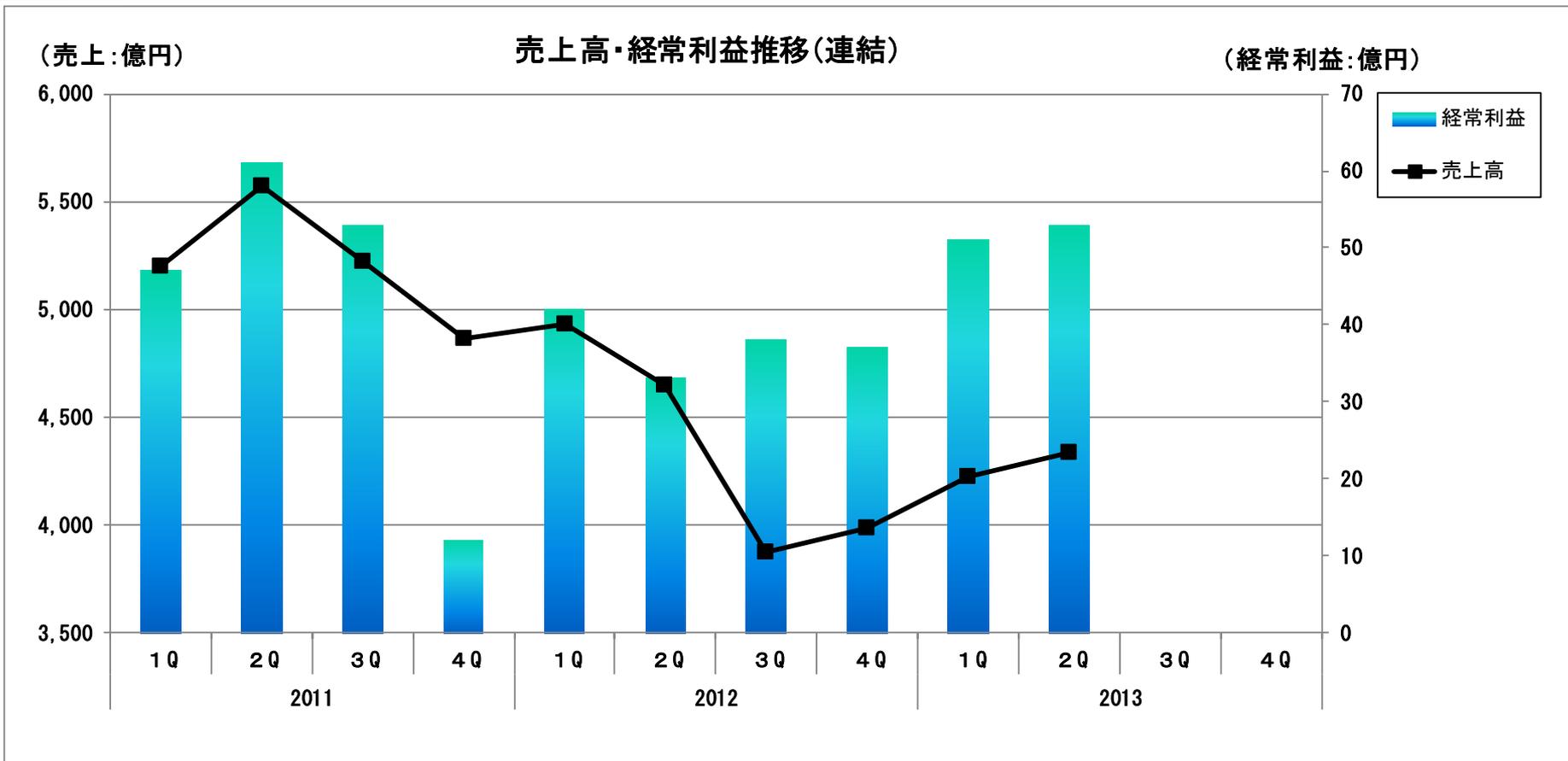
通期業績予想	今回公表値	前期実績	増減額	増減率
経常利益	215	150	65	43%

鋼材の輸出環境は厳しい状況が続くと想定されるものの国内市場の底堅い需要により前期比増収を予想

## 鉄鋼業界の動向

- 国内では、建設向けの鋼材需要が増加。製造業向けでは造船分野の減少が継続すると想定されるが、自動車向けは比較的堅調であり、全体としては増加するものと想定。
- 輸出では、円安効果や海外経済持ち直しによる回復基調が見込まれるものの、中国・韓国ミルをはじめ、供給過多の状況が継続し、厳しい状況がつづくものと想定。
- 国内においては、土木・建築分野における復興需要、また自動車関連向けを中心に薄板需要を確実に捕捉していく。海外においては、中近東等の遠隔地向け輸出販売の拡大や三国材・地場材による現地取引を推進するとともに、海外鋼材加工センターを活用した高付加価値製品の拡販をはかる。また、原材料分野においては輸入および三国間取引の数量をさらに拡大するとともに、新規商材の開拓等を推進する。

# 6. 《参考》売上高・経常利益推移（連結）



	2011年度				2012年度				2013年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	5,201	5,573	5,225	4,867	4,932	4,651	3,872	3,984	4,224	4,334		
経常利益	47	61	53	12	42	33	38	37	51	53		



**JFE**

\*本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって見通しと異なる場合があります。